

# Market Flash

発表日: 2018年11月26日(月)

## 微妙な製造業PMI

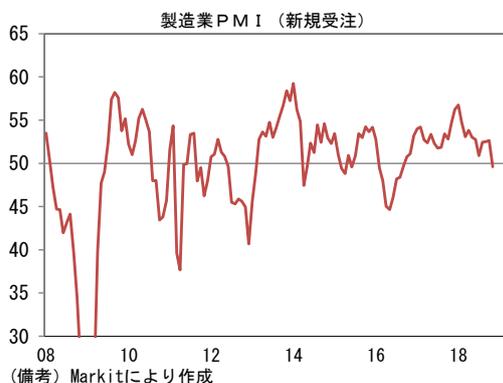
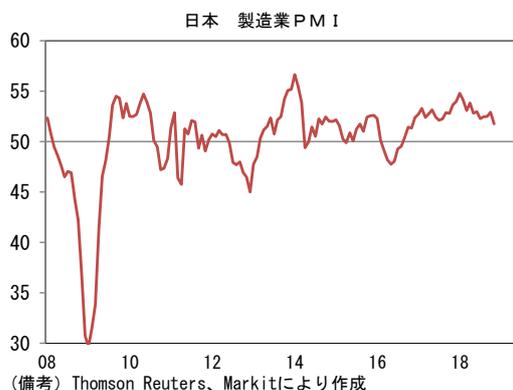
～新規受注 50 割れ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-452)

- ・日経平均は年率 10%程度の上昇カーブを描き、先行き 12 ヶ月で 25000 に到達しよう。
- ・USD/JPY は米利上げ打ち止めが視野に入る中、先行き 12 ヶ月で 100 へと下落しよう。
- ・日銀は現在の YCC を 2020 年春頃まで維持するだろう。
- ・FED は 2019 年後半に利上げを小休止する可能性があるだろう。

### < #製造業PMI #低水準 #新規受注 #50 割れ >

- ・本日発表された日本の11月製造業PMIは51.8へと10月から1.1pt水準を切り下げ、2016年11月以来の低水準に落ち込んだ。景気や株価の先行指標として有用なこの指標は、8-10月に自然災害の影響が検出されなかった反面、11月は精彩を欠く内容であった。
- ・サブ項目で目を引いたのは景気先行指標として注目度の高い新規受注。11月は49.6へと10月から3.0pt低下し、2016年9月以来で初めてマイナス圏に転落。輸出受注に限ったそれは50.8と底堅さを維持したものの、内外需含めた新規受注全体が50を割れたことは内需の変調を示唆している可能性があり不気味な兆候。既発表の機械受注と同様、企業の設備投資先送りを暗示しているのかもしれない。下支え役となった実質輸出は10月に前月比+6.2%と大幅に反発して9月の落ち込みを取り戻した後、11月以降も増加基調を辿ると期待されるが、それが生産の基調的な強さに結び付くかは微妙。11月製造業PMIでも「生産」は51.8へと1.0ptも落ち込み、2016年9月と同水準まで低下した。
- ・30日発表の10月鉱工業生産は前月比+1.2%がコンセンサス。2015年基準への改定によって9月の数値が速報値の▲0.9%から▲0.4%へと上方修正されたこともあって、市場予想に届けば、はっきりとした回復が示されることになる。しかしながら上述の11月製造業PMIの弱さに鑑みると、コンセンサスは下振れリスクが大きいとの印象が拭えない。生産が予想を下振れた場合、投資家マインドが一段と悪化するリスクがあるため警戒感を持って挑みたい。

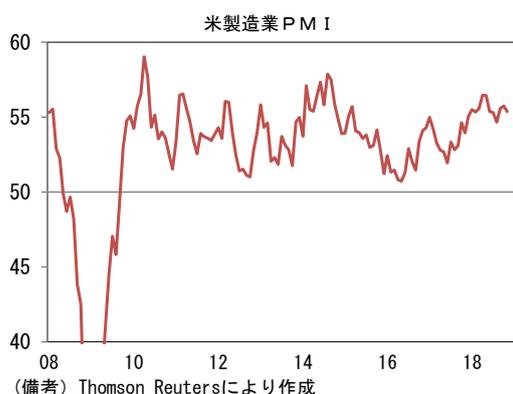


### 【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は欧米株安の流れを断ち切り小幅高で推移（11：00）。

### 【海外経済指標他】

- ・11月米製造業PMIは55.4へと10月から0.3pt低下。もともと水準は直近12ヶ月平均に等しく、製造業企業の好調さを映し出している。新規受注、新規輸出受注が双方とも上昇したほか、雇用が異例の高水準を維持した。
- ・11月ユーロ圏製造業PMIは51.5へと0.5pt低下して2016年5月以降で最も低い水準へと落ち込んだ。2018年入り後は11ヶ月のうち8ヶ月が前月比マイナスとなり、景気先行指標の新規受注は直近2ヶ月連続で50を割れている。サービス業PMIも53.1へと0.6pt低下。この結果、総合PMIは52.4へと低下し、2016年9月以来の水準に落ち込んだ。



### 【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は下落。感謝祭翌日の半日取引で動意に乏しい展開も、閑散相場のなかでNASDAQの下落が続き、相場全体を下押し。WT I原油は急落して50.42ドル（▲4.21ドル）。
- ・前日のG10通貨は感謝祭翌日で欧米市場が閑散とするなか、USDが買われる展開に。欧州各国のPMIが弱い内容となったことでEURを中心に欧州通貨が下落したほか、原油価格下落を横目に資源国通貨が軟調。USD/JPYは112後半まで水準を切り下げた。
- ・前日の米10年金利は3.039%（▲2.4bp）。欧州債金利の低下に追随した後、米国時間はナローレンジで推移。欧州債市場（10年）はドイツ（0.376%、▲3.0bp）、フランス、イタリアが金利低下。スペインが概ね横ばい。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。